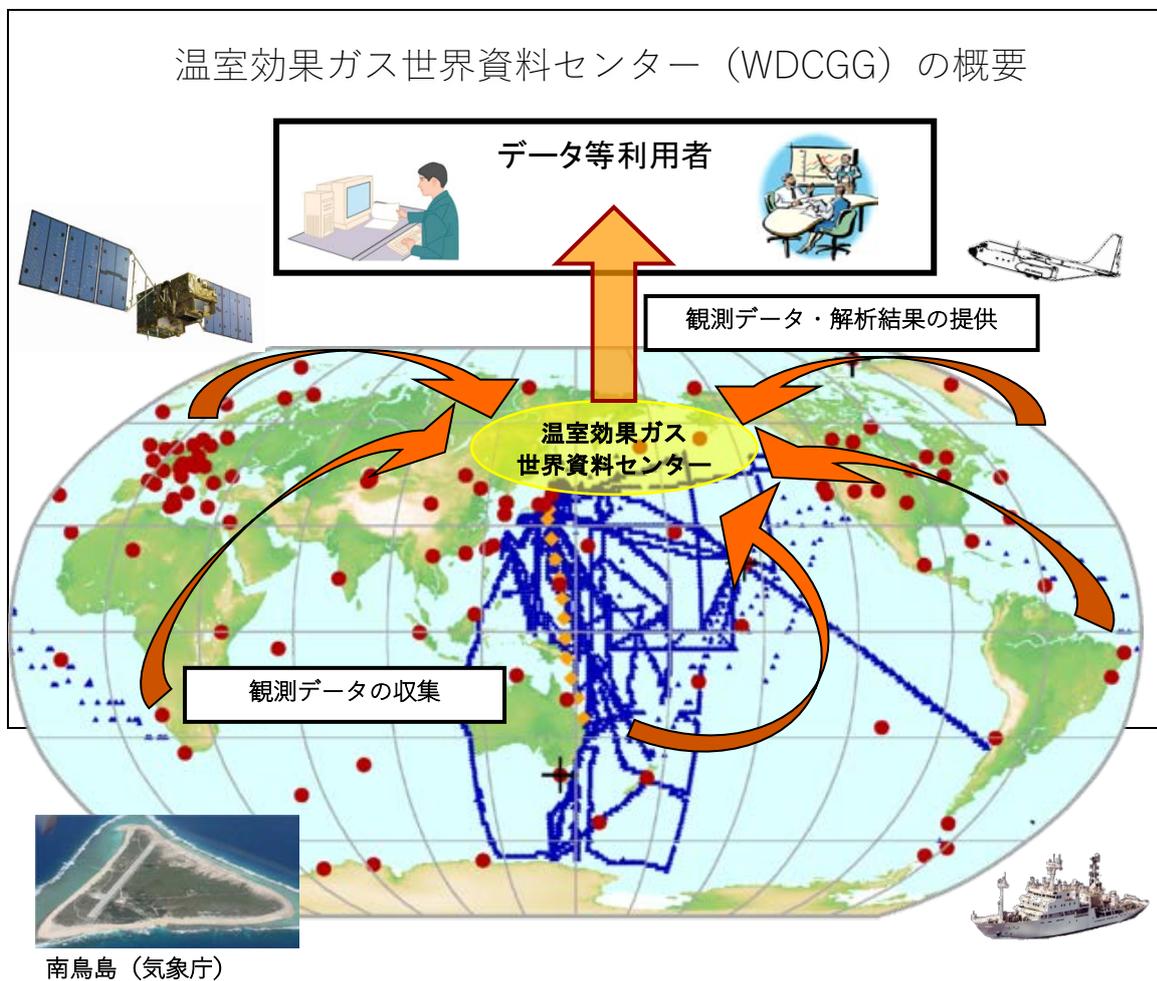


温室効果ガス世界資料センター（WDCGG）とは

気象庁は世界気象機関（WMO）の要請に基づいて、平成 2 年より温室効果ガス世界資料センター（World Data Centre for Greenhouse Gases : WDCGG）を運営しています。WDCGG は、全世界から報告される二酸化炭素やメタン等の各種温室効果ガス観測データを収集し、提供している世界で唯一の国際的な機関です。

WDCGG はこれらのデータを利用して様々な解析を行っており、その結果は、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の報告書や、WMO 温室効果ガス年報として気候変動に関する国際連合枠組条約（UNFCCC）の締約国会議（COP）で毎年配付されるなど、温室効果ガスの現状を伝える活動に有効に利用されています。さらに、WDCGG が提供している観測データや解析結果は、世界の地球温暖化の研究者にも広く利用されています。

なお気象庁は、平成 30 年 8 月 31 日に WDCGG ホームページをリニューアルし、データの形式と品質を改善するとともに、データの検索・表示の機能などを強化しました。



WDCGG ホームページ
<https://gaw.kishou.go.jp/jp/>